LSP　バッグマスク　レサシテーター
取扱説明書

smiths medical

目 次

1. 安全上の警告・注意

【警告】

〈使用方法〉

- 本品は、医師または他の医療専門家による指示を受けた資格を持つ救急医療従事者のみが使用すること［患者の状態、状況、他の要因により本品の使用方法が異なったり、使用できない場合があるため］。
- 心肺蘇生法を習熟し、訓練を受けた者のみが本品を使用すること。
- 本品の使用が適切でない、あるいは本品自体の破損等により正常動作が得られない場合は、速やかに口対口または口対鼻等の他の人工呼吸を実施すること［速やかに他の人工呼吸が行われないと、患者に換気不足を招く可能性があるため］。
- 本品使用中は、患者を常に監視すること。問題が生じたときは直ちに適切な措置を施すこと。
- 流量は絶えず監視すること［流量が不足•制限されたり、なかった場合、換気を受けている患者が脳障害を引き起こす可能性があるため］。
- 本品使用後は「5. 保守・点検に係る事項」に従い、毎回洗浄および滅菌すること。

【禁忌・禁止】

〈使用方法〉

- 本品を使用する場合は、喫煙しないこと。また、酸素欠乏空気中や裸火のそばで使用しないこと。本品にオイルを使用したり、引火性物質のある環境下で使用しないこと［本品は、酸素を含む圧縮された医療用酸素で作動するので、引火または爆発を誘引する恐れがあるため］。
- 有害ガスのある環境下で使用しないこと。
- 高濃度酸素使用中は火気を使用しないこと。

〈併用医療機器〉

- 本品以外の非再呼吸弁を接続しないこと［正常に呼気・吸気できない可能性があるため］。

【使用上の注意】

〈重要な基本的注意〉

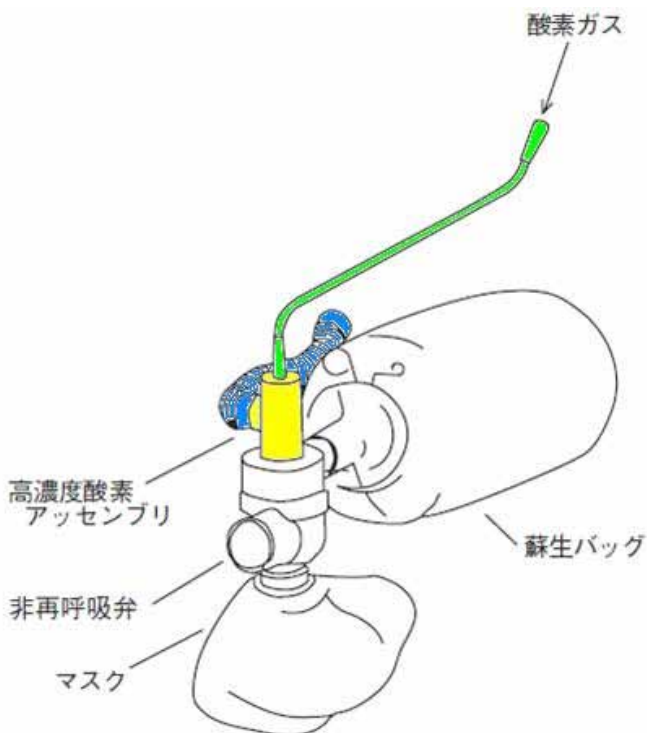
- 使用前に構成品に破損等なく、接続部に緩み、がた等がないことを確認すること。
- 蘇生バッグを圧縮操作して、各部の機能が正常に作動することを確認してから使用すること。
- 高濃度アッセンブリの使用による酸素供給は、20L/ 分以下の酸素流量にて使用すること。
- 高濃度アッセンブリのリザーバチューブをつまんだり、開口末端部を塞がないこと。
- 酸素消費量を常に監視すること。
- 蘇生バッグに高濃度アッセンブリを接続する際は、必ず酸素供給源に接続すること。

2.　製品概要と各部・付属品の名称・構造

【品番】

L238-222　LSP バッグマスクレサシテーター 成人用

L238-212　LSP バッグマスクレサシテーター 小児用

【製品全体図】

注意：酸素ガスは外部の供給源より供給されます。

高濃度酸素アッセンブリは以下の構成品から成ります。

T アダプタ ― 上図黄色部分

酸素供給ライン ― 上図緑色部分

リザーバチューブ ― 上図青色部分

3.　技術仕様

【蘇生バッグ／非再呼吸弁】

マスクのソケット装着部は外径 22mm、内径 15mm の円錐接合。

〈原材料〉

バッグ、ダイヤフラム、フラッパーバルブ：シリコーンゴム

アダプタ、非再呼吸弁ボディ：ポリスルフォン

リング：ステンレス鋼

【マスク】

成人用、小児用の２種類。ソケットは内径 22mm の円錐接合。

〈原材料〉

シリコーンゴム

【高濃度酸素アッセンブリ】

〈原材料〉

Ｔアダプタ：ポリスチレン

酸素供給ライン：ポリ塩化ビニル

リザーバチューブ：エチレン酢酸ビニル共重合体（EVA）または、ポリプロピレン

【交換用付属品】

L003482　高濃度酸素アッセンブリ

4.　一般的な使用方法とその注意事項

【使用方法】

＜使用準備＞

1. 各構成品が正しく接続されていることを確認してください（接続方法は、「5．保守点検に係る事項【組立手順】」参照）。

注意：高濃度酸素アッセンブリは再使用しないでください。

---

2. 非再呼吸弁等の動作を確認してください。

＜操作方法＞

1. 患者の頚部を支え、図１のように額を押して頭部を後方に動かします。

2. 患者が呼吸を始めない場合は、気道が確保されていることを確認してからフェイスマスクを患者の顔に当て、片手でしっかりと押し付けます（図２参照）。

3. 親指でマスクの縁を押さえ、人差し指でマスクの顎側を押さえます。残りの指で顎を持ち上げて頭部を後方に位置させます。蘇生中、下顎を持ち上げたまま頭部を後方に維持します。

4. マスクと顎を片手で保持し、他方の手でバッグの圧縮操作をします。バッグは胸郭が上がるまで握り、放します。

5. 呼吸が回復しない場合は、患者の頭部の向きを変え（図３参照）、閉塞している場合は患者の口の中から嘔吐物等の異物を取り除きます。マスクを元に戻し蘇生を続けます（図２参照）。

6. 高濃度酸素アッセンブリを使用し、高濃度酸素の供給による蘇生を行う場合、成人用を使用する場合は、１分間にバッグを圧縮する回数に合わせて酸素流量を設定してください。

   例：サイクル回数が 1 分間に 12 回の場合：12L/ 分

   小児用の場合は流量を 1 分間にバッグを圧縮する回数の 1/2 に合わせてください。

   バッグは一度圧縮したら、ゆっくりと元に戻します。可能な限り圧縮間の時間全体を利用してバッグをゆっくりと戻してください。そうすることにより、バッグ内の酸素量を維持しながら、高濃度酸素を供給することができます。

図1　図2　図3

【貯蔵・保管方法および使用期間等】

〈貯蔵・保管方法〉

本品を保管するときは次の事項に注意すること。

- 水濡れ、高温多湿および直射日光を避けて保管すること。
- 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所を避けて保管すること。
- 保管時（運搬時も含む）は、過度な振動・衝撃等に注意すること。

〈保管条件〉

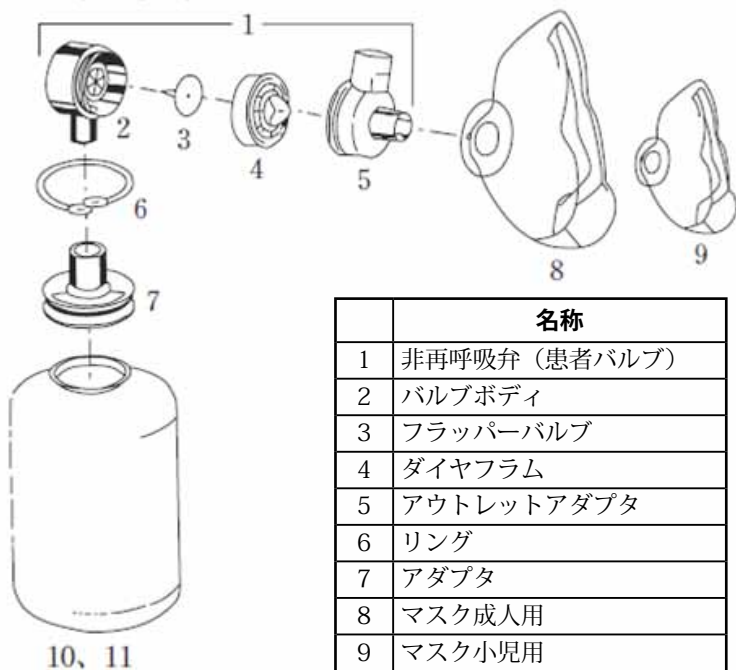
- 温度：-40℃～ 71℃

〈耐用期間〉

- ５年［自己認証（当社データ）による］

5.　保守・点検に係る事項

本品使用後は必ず分解、洗浄･消毒･滅菌、組立、および機能チェックを行ってください。

分解および組立時には、以下の構成部品が全て揃っており損傷等がないことを確認してください。

	名称
1	非再呼吸弁（患者バルブ）
2	バルブボディ
3	フラッパーバルブ
4	ダイヤフラム
5	アウトレットアダプタ
6	リング
7	アダプタ
8	マスク成人用
9	マスク小児用
10	バッグ成人用
11	バッグ小児用

注意：

上記 8、9 のマスク、および 10、11 のバッグは、成人用・小児用の品番ごとにそれぞれ 1 種類ずつしか付いていません。

成人用（品番：L238-222）には、8 のマスク成人用および 10 のバッグ成人用のみ付いています。

小児用（品番：L238-212）には、9 のマスク小児用および 11 のバッグ小児用のみ付いています。

【分解手順】

1. 非再呼吸弁とマスクをバッグから外します。

注意：高濃度酸素アッセンブリを使用している場合は先に高濃度酸素アッセンブリを取り外します。

2. 非再呼吸弁からマスクを外します。

3. 非再呼吸弁を分解します。

4. リングとアダプタを外します。

5. 完了

注意：小児用は成人用に準ずる。

【洗浄・消毒・滅菌】

各構成品を水または温水で洗浄した後、薬液消毒またはオートクレーブ滅菌を行ってください。

薬液消毒は、市販されている消毒用薬剤を使用してください。

消毒用薬剤例：グルコン酸クロルヘキシジン液 0.1 ～ 0.5%水溶液で十分すすいだ後、乾燥させてください。

オートクレーブ：121℃　20 分間

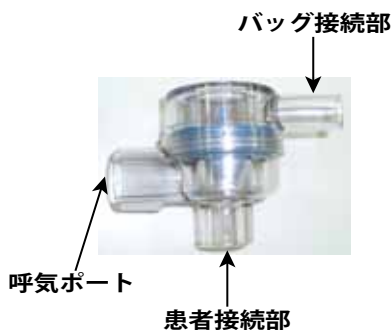
注意：蘇生バッグはリングを外してからオートクレーブ滅菌を行ってください。

【組立手順】

1. フラッパーバルブをバルブボディに取り付けます。

2. ダイヤフラムをアウトレットアダプタに取り付けます。

逆さに取り付けないよう注意してください。

3. バルブボディとアウトレットアダプタを取り付けます。

4. バッグにアダプタとリングを取り付けます。

5. 非再呼吸弁を取り付けます。

6. マスクを取り付けます。

7. 必要に応じて高濃度酸素アッセンブリを取り付けます。

【機能テスト】

洗浄および消毒し組み立て後、毎回機能テストを実施し、正常に機能することを確認してください。

1. 片手でバッグを圧縮し、他方の手で非再呼吸弁の呼気ポートと患者接続部を塞ぎます。

バッグの手を放します。

バッグが直ぐにもとの状態に膨らむことを確認します。

2. 非再呼吸弁の患者接続部を塞ぎ、バッグを圧縮してみます。普通の力では完全に圧縮できず、空気の逆流がなければ、非再呼吸弁は正常に機能しています。

3. 非再呼吸弁とバッグを取り外し、非再呼吸弁の患者接続部をバッグの開口部にあてます（接続は、できません）。

バッグを何度も速く圧縮します。

非再呼吸弁の呼気ポートから空気が流れれば、呼気が適切に大気に排出されています。

上記手順を実施し、正常に機能していることを確認後、使用することができます。

販 売 名：LSP　バッグマスク　レサシテーター
承認番号：20300BZY00594000

smiths medical

製造販売元
スミスメディカル・ジャパン株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂 7-1-1
【お問い合わせ先】
03-3405-9300